

## 活動報告

## 日韓小学生のツバメ交流会

神山和夫

石川県と石川県健民運動推進本部、環境と生命を守る慶南教師の会(韓国)、そしてバードリサーチの共催で、7月30日～8月1日にかけて、韓国でツバメ交流会を開催しました。日本から韓国を訪問したのは、石川県各地の小学校から集まった6年生たちです。石川県では1972年から5月の愛鳥週間にすべての小学校でツバメの調査が続けられており、それによってツバメの数の変化がモニタリングされています。バードリサーチではWebを使った入力システムを提供して児童たちのデータ収集を支援してきましたが、児童や市民による継続的なツバメ調査が韓国でも盛んになることを手助けしたいと思い、この交流会の開催に協力してきました。

訪問団の一行は大阪港からフェリーに乗り、瀬戸内海を通過して韓国に向かいました。フェリーでは大部屋を借り、私がツバメ講座をしたり、児童たちが発表会の練習などをしながら過ごし、翌日の朝に釜山港に到着しました。そこから会場になった慶尚南道昌原市のウサン小学校までは、バスで1時間ほどの道のりでした。観察発表会では、日本の小学生は壁新聞を使って、自分で観察したツバメについて

や、ツバメの大家さんたちがツバメを大切にしていることなどを紹介しました。韓国の小学生はパワーポイントで、学校周辺のツバメの子育ての様子などを紹介してくれました。そして発表会の後は、両



写真1. 発表会のようす。

国の小学生が混じった班を作り、周辺のツバメの巣の観察(残念ながら、繁殖は終わっていました)、お互いの国のカレーライス作り、家庭訪問などをしました。ときどき日本語が分かる大人や大学生が通訳についていたのですが、通訳がないときでも子供どうしは一緒に作業したり遊んだりしていて、言葉が通じなくても尻込みしないで交流する様子には感心させられました。

## 古い町並みに多いツバメ



写真2. ウサン小学校前の通りでツバメの巣を観察

韓国のツバメフォーラムに参加したときのことを報告した5月号の記事では、韓国の都市部にツバメが少ないようだと書きましたが、今回訪問したウサン小学校は郊外にある全校児童40名ほどの小さな学校で、周囲にはレンガ造りの古い戸建て住宅や、漁港、養鶏場などがあり、学校前の通りには数軒おきにツバメの巣が見つかりました。巣の場所は、日本でもよく見られる玄関の軒先が多いようでした。韓国の家は塙で囲まれていて中が見えにくいのですが、ウサン小学校のパク・ソンヒョン先生のお話では、このあたりのツバメの巣は必ず軒先であって、日本のように家や納屋の中に巣があるのは見かけないということでした。観察発表会では釜山付近を流れる洛東江の近くでツバメ調査をしている中学生も発表してくれたのですが、彼が調査した場所でも、古い商店街の通りにたくさんの巣が見つかっていました(写真3)。少なくともこの地域では、都市部を少し離れば、ツバメはたくさん営巣しているのではないかと思われました。ただ、韓国では日本ほど鳥類調査が行われていないので、全国的なツバメの分布状況は分かりません。ツバメが減っているという話を韓国の鳥の研究者から聞いたことがありますし、今回お会いしたパク先生も周囲のツバメが減っていると言われていました。韓国と日本には、人家で営巣するツバメを大切にしてきた共通の文化があります。今後も交流を続けて、ツバメの保全や環境教育についての知識を共有していきたいと考えています。

ツバメ交流会には、日韓文化交流基金の助成をいただきました。ご支援に感謝いたします。



写真3. 洛東江周辺のツバメの巣の調査を発表する韓国の中学生。

バードリサーチニュース 2013年8月号 Vol.10 No.8

2013年8月28日発行

発行元: 特定非営利活動法人 バードリサーチ  
〒183-0034 東京都府中市住吉町1-29-9  
TEL & FAX 042-401-8661  
E-mail: br@bird-research.jp URL: http://www.bird-research.jp

発行者: 植田睦之 編集者: 青山夕貴子・高木憲太郎

表紙の写真: ペニアジサシ